

# 中央社会保険医療協議会・薬価専門部会 意見陳述

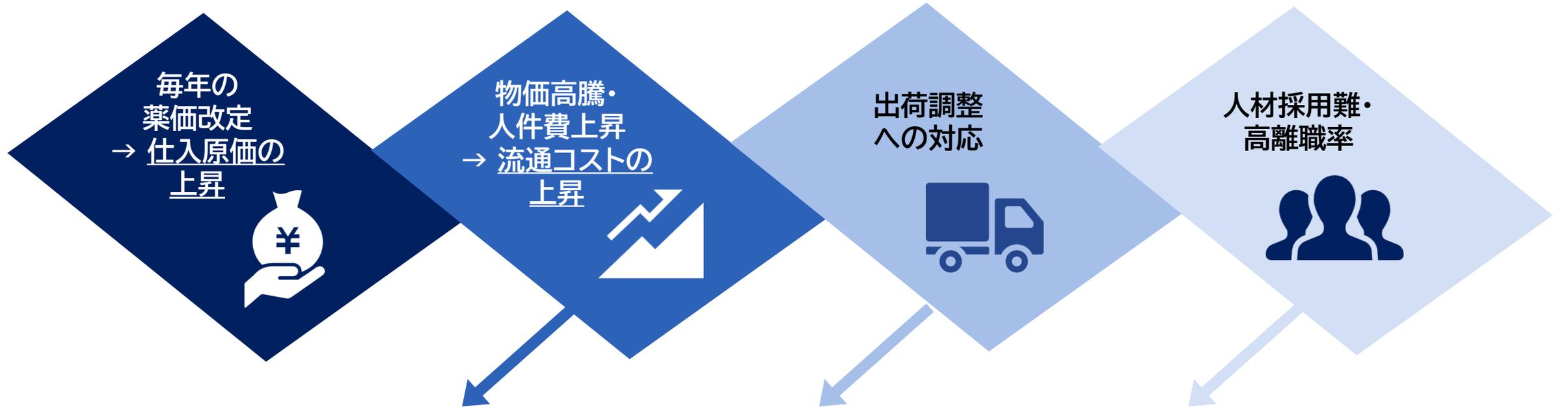
2025年9月17日



一般社団法人 日本医薬品卸売業連合会

# 「取り巻く環境の変化を踏まえた 持続可能な流通」へ

# 持続的な医薬品の流通に係る4つの環境要因



- 賃金UP率**4.86%**  
(全体**5.02%**)※1

\* 価格転嫁を推奨する政府の方針と、薬価が決まっている中でコストの転嫁が困難であることが矛盾

※1 UAゼンセン製造産業部門  
2025労働条件闘争妥結概況より

- 出荷調整への対応  
**548億円**※2  
(医薬品卸の年間人件費換算)
- 総労働時間に占める出荷対応時間の割合:**19%**※2

※2 クレコンリサーチ&コンサルティングによる調査資料より

- 新卒採用の応募者減少  
**76%**※3の卸が「減少傾向にある」と回答
- 過去1年間に退職(転職)を検討した従業員の割合:**43%**※4

※3 医療用医薬品を主に扱う会員構員会社45社を対象に当連合会にて実施

※4 ヘルスケア産業プラットフォームによるアンケート調査より

# 仕入原価の上昇

## 2022年度を100とした場合の指数

仕入原価（対薬価）

%

104

102

100

98

2022年度

2023年度

2024年度

100

100

101.6

100.5

100.3

102.2

100.8

100.6

— 後発品 — 長期収載品 — 特許品

# 流通コストの上昇

## 2022年度を100とした場合の指数

流通コスト(対薬価)

%

140

130

120

110

100

90

2022年度

2023年度

2024年度

100

100

94.9\*

2023年度

107.3

2023年度

115.2

2023年度

123.4

115.7

101.6

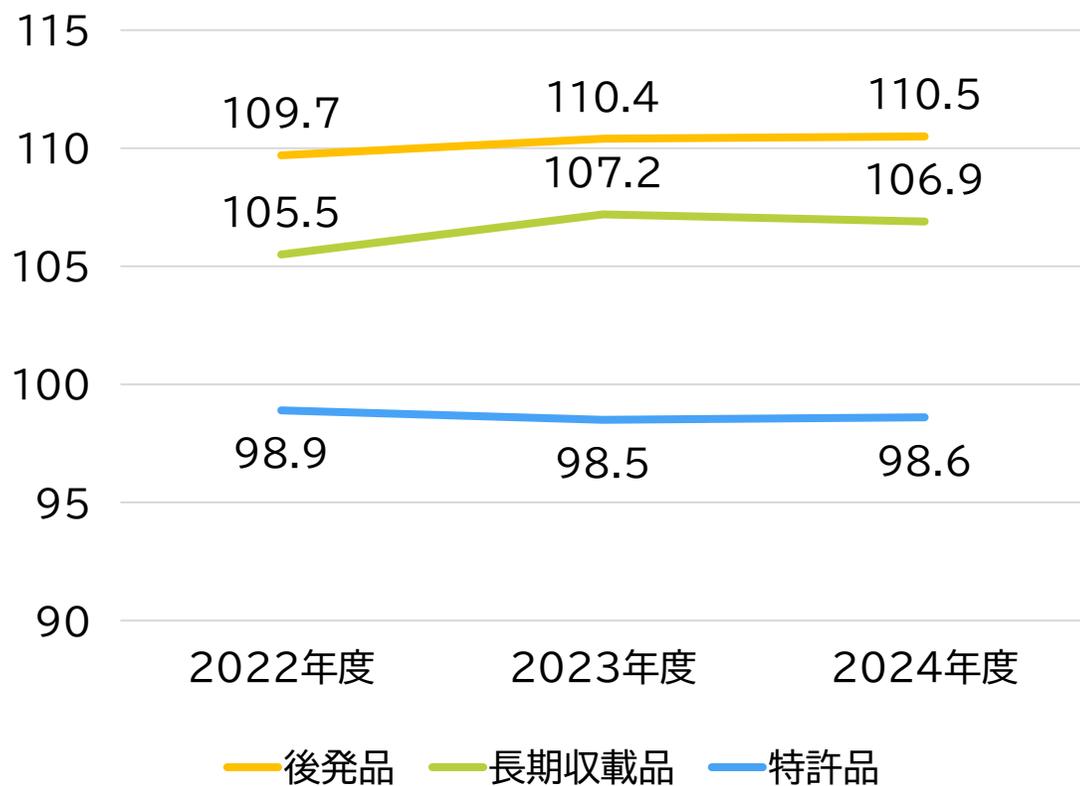
— 後発品 — 長期収載品 — 特許品

流通コスト= 医療用医薬品(薬価収載品)卸事業にかかわる販売費及び一般管理費

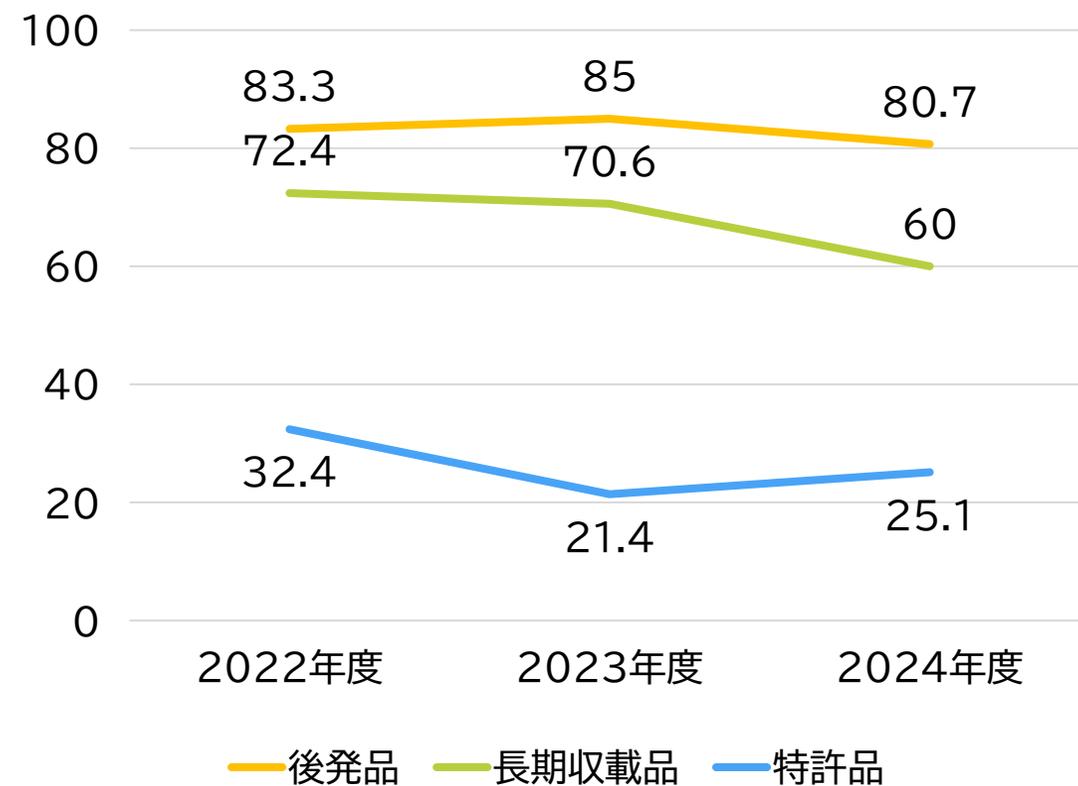
(\*) 新型コロナ治療薬の急増による一過性の要因

# 総流通コストの上昇と流通不採算の比率

## 対販売価総流通コスト率 (%)



## 流通不採算の比率 (%: 販売額ベース)



総流通コスト = 仕入原価 + 流通コスト

# 持続的な医薬品の流通へ向けての課題

1

全てのカテゴリーにおいて、医薬品卸の仕入原価は上昇している

2

特許品においても、薬価が維持されているにもかかわらず薬価収載時に算定のベースとされた流通経費が仕入原価に反映されていない品目もあり、約25%が流通不採算となっている

3

燃料費、設備・備品・システムの維持費、賃料、人件費等あらゆる部分でインフレ局面にあり、流通コストは大きく上昇しており、持続的な流通が困難になってきている

# 持続的な医薬品の流通へ向けた意見

“骨太の方針 2025”より  
医薬品の安定供給に向け…  
取り巻く環境の変化を踏まえた持続可能な流通の仕組みの検討を図る

## 意見

1

医薬品の安定供給に支障を及ぼす中間年の薬価改定については、廃止していただきたい

2

薬価収載時に算定のベースとされた流通経費が仕入原価に反映されるようにしていただきたい

3

医薬品卸が負担している流通コストにおける物価高騰への対応を検討していただきたい

# 參考資料

# 医療用医薬品の単位薬価帯別市場構成

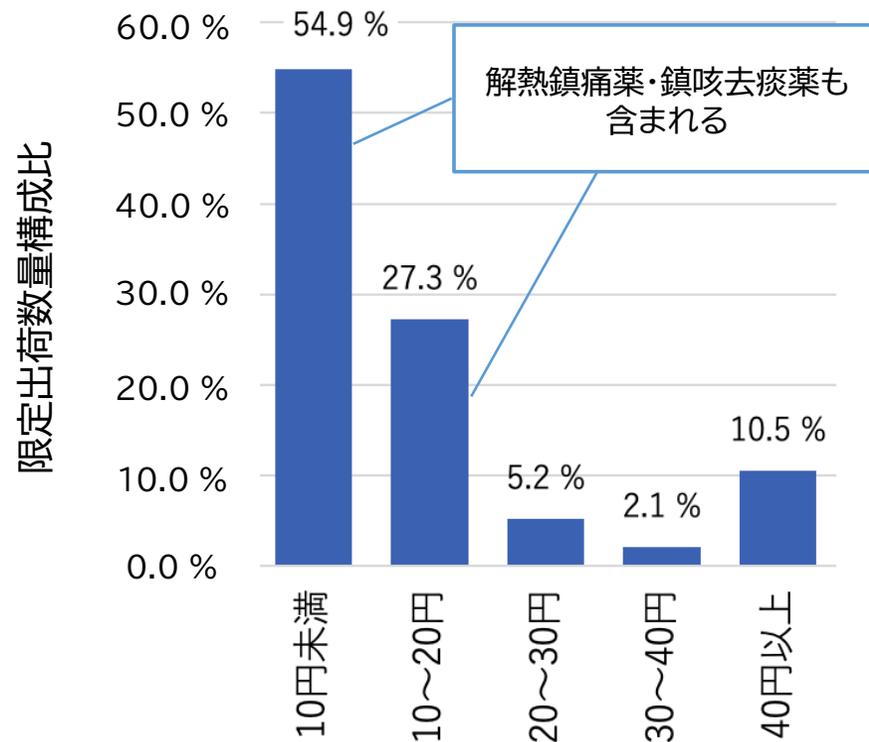
医療用医薬品市場においては、薬価20円未満品の品目数(包装単位別)が50%を占め、金額(薬価ベース)では10%を占めている。

単位薬価	規格容量別品目数 (製品小分類)		包装単位別品目数		流通金額 2024年4月～2025年03月 (億円:薬価ベース)	
	品目数	割合	品目数	割合	金額	割合
10円未満	2,332	15%	4,678	18%	3,668	3%
10円以上20円未満	4,173	27%	8,157	32%	7,833	7%
20円以上100円未満	4,201	27%	6,836	27%	13,487	13%
100円以上1000円未満	2,329	15%	3,349	13%	24,306	23%
1000円以上10万円未満	2,040	13%	2,353	9%	37,227	35%
10万円以上100万円未満	267	2%	274	1%	17,402	16%
100万円以上	43	0%	63	0%	2,006	2%
単位薬価なし	2	0%	33	0%	32	0%
総計	15,343	100%	30,135	100%	105,961	100%

# 単位薬価帯別の出荷調整の数量状況

限定出荷状況を2024年度の単位薬価帯(10円単位)別にみると、10円未満の限定出荷数量が多く、後発医薬品は10円以上～20円未満も限定出荷数量が多い。

日本製薬団体連合会「医薬品供給状況に係る調査」(2025年3月)において  
限定出荷・供給停止・出荷停止予定となっている製品の薬価帯別の納入数量構成比



# アンケート調査結果からみる流通現場の状況

ヘルスケア産業プラットフォームが直近で実施したアンケート調査により、流通現場を支える従業員の実態が明らかとなっている。

= 回答の抜粋 =

「需給調整業務」に最も時間を割いているとの回答が約65%を占める一方で、「価格交渉に関する業務」とした回答は約22%に留まる。

「需給調整業務や中間年改定に伴う時間的制約」が流通改善の進捗を阻害しているとの回答が約36%を占める。

医薬品卸の人件費や燃料光熱費などの流通コストの上昇分を納入価格に反映することについて、「得意先の理解があまり得られていない/ほとんど得られていない」と回答が約38%を占める。

「この1年間で退職(転職)を考えたことがある」との回答が約43%を占める。特に、20代以下・30代で退職を検討している割合が高い。

退職を検討した理由として「医薬品卸の将来に不安を感じた」が約54%を占める。